

<株式会社エフエム東京 第 4 3 0 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 28 年 7 月 5 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

横 森 美 奈 子 委員長 渡 辺 貞 夫 委員
ロバート・キャンベル 委員 川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（2 名）

内 館 牧 子 委員 秋 元 康 委員

◇社側出席者（9 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
村 上 取締役 編成制作局長
山 科 常勤監査役
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
岩 城 編成制作局番組プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（1 名）

森 田 マルチメディア放送事業本部 ゼネラルプロデューサー

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 29 分）
『TOKYO FM WORLD』
2016 年 6 月 13 日（月） 20:00～21:15 放送

≪ 議事内容 ≫

議題 1: 最近の活動について

■ SCHOOL OF LOCK! 熊本県から生放送を実施

10代向けプログラム『SCHOOL OF LOCK!』が、6月29日(水)に熊本県から生放送を実施しました。4月14日の熊本地震発生直後から『SCHOOL OF LOCK!』では放送内容を変更し、番組掲示板に寄せられた熊本のリスナーからの書き込みを連日紹介、不安の最中にある彼らと直接電話をつなぐなど、熊本のリスナーに寄り添った放送を継続して届けてまいりました。

この度、震災からおよそ2カ月経ち、被害に遭った熊本の10代リスナーに会いに行くことを目的に、FM熊本のスタジオから熊本の現状とこれからを全国のリスナーに届ける生放送を実施しました。

当日は震災直後の逆電で避難所から出演してくれたリスナー(ラジオネーム: 広く深くさん)に直接会いに行き、現在の心境を聞いた模様をオンエアし、また熊本市の大西市長も電話出演頂き全国へ熱いメッセージを伝えてくれました。

放送を聴いたリスナーからは、「途中で涙ぐんでいるのが聞こえて、こっちも泣きそうになった」、「熊本に来て実際に現場を見てくれてありがとう。番組で声を聴いたときには、涙が出た」、「全国のみなさんが熊本のことを心のどこかで思ってくれているというだけで支えになる」といった声が寄せられました。

番組では、今後も被災地のリスナーをはじめ、全国の10代リスナーとの“心の絆”を大切に生放送を続けてまいります。



▲ FM 熊本からの生放送



▲ 熊本のリスナーに取材

■ ビートルズ来日 50 周年記念 TOKYO FM ワンデースペシャルを実施

6月30日(木)、1966年6月30日のビートルズ初来日となった伝説の日本武道館公演から50周年を記念し、TOKYO FMでは1日を通して番組縦断のビートルズ・ワンデースペシャルを放送しました。ポップソングの礎を築いたともいえるビートルズの足

跡をたどるとともに、50 年経っても今なお聴かれ続けている理由は何なのか、TOKYO FM ではこのメモリアルな日に音楽ステーションとしてビートルズファンのみならず、とりわけビートルズを原体験で知らない若者リスナーにもわかりやすく紹介し、各番組が様々な角度からの企画やゲストを迎えてビートルズを特集しました。今後も音楽ステーションとして、音楽史に多大な影響を与えたスーパースターのトリビュートを特集してまいります。

§ 各番組で実施した特別企画 §

■クロノス(6:00-9:00) パーソナリティ:中西哲生・高橋万里恵

スタートは通勤リスナーに向けてビートルズ・リクエストをオンエア。

ちょうど 50 年前、日本武道館公演が行われた当時のビートルズ現象を解説。

■Blue Ocean(9:00-11:00) パーソナリティ:住吉美紀

「ザ・ビートルズまるわかり特集」と題し、赤坂泰彦の監修・出演で、武道館公演エピソードを演奏楽曲とともに解説。

■ディア・フレンズ(11:00-11:30) パーソナリティ:坂本美雨

ゲストに渡辺正行を迎え、中学校の文化祭に際して友達とバンドを組み、ビートルズの楽曲を演奏した青春時代エピソードを聴きました。

■LOVE CONNECTION(11:30-13:00) パーソナリティ:LOVE

タイトルに「LOVE」を含んだビートルズの楽曲を特集。パーソナリティの LOVE が歌詞を翻訳しながら、ビートルズのラブソングの世界観に迫りました。

■「これから、何する？」(13:00-14:55) パーソナリティ:高橋みなみ

高橋みなみが同世代の 20 代リスナーに向け、「いまさら聞けない？ 初心者のためのビートルズ」と題し、ダイノジ大谷氏をゲスト講師に迎え、歌詞や人柄から見る“人間ビートルズ”の魅力を教えてもらう企画をオンエアしました。

■シンクロのシティ(15:00-16:50) パーソナリティ:堀内貴之

東京の歴史に迫るレギュラーコーナー「トウキョウハナコマチ」で、ビートルズ来日をめぐるストーリーを紹介。日本武道館公演の音源をオンエア。

■Skyrocket Company(17:00-19:00) パーソナリティ:マンボウやしろ、浜崎美保

ビートルズを愛する 2 組のロックバンド、THE BAWDIES と go!go!vanillas が出演し、現役ロックアーティストによるビートルズ・トリビュート企画を実施。

■TIME LINE(19:00-19:52) パーソナリティ:小田嶋隆

50 年前の来日公演を体験し、後に音楽業界に携わるオフィス・オーガスタ社長の森川欣信氏をゲストに迎え、ライブ体験のすばらしさや重要性について考えました。

■TOKYO LOUD(20:00-21:15) パーソナリティ:大抜卓人

若い世代のロックファンに向け、ビートルズのカバー曲特集をオンエア。

■JET STREAM(24:00-24:55) パーソナリティ:大沢たかお

「The Beatles Best of Best」と題し、50 年前に思いを巡らせる The Beatles の旅をお届けしました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○別紙でご説明いただいた SCHOOL OF LOCK! の 18 歳選挙特番は、時勢にも合っているし、素晴らしい試みだと思う。

■この選挙特番第 3 部では、SCHOOL OF LOCK! の校長・教頭も生放送で出演する。ゲスト出演する椎木里佳さんは、起業家の高校生社長としても話題になった方なので、政治についてリスナーと等身大の目線で語っていただければと思っています。

○TOKYO FM では、以前から選挙関連企画に取り組んできたのか。

■今回は若い世代の投票率が話題になっているが、ちょうど当社ターゲットと合致することもあって、朝ワイドの「クロノス」、夕方ワイドの「TIME LINE」を中心に、選挙制度変更を大きな関心事と捉えて“選挙に参加しよう”といったメッセージを随時発信してきた。

○SCHOOL OF LOCK! でも、選挙について番組内で取り上げることはあったのか。

■選挙権の年齢変更にともない「18 歳」という年代をキーワードにした特集企画を定期的に作るなど、若者の社会参加を呼びかけてきた。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『TOKYO FM WORLD』 パーソナリティ：ケリー隆介、アンジー・リー

【放送日時】 2016年6月13日（月）20:00～21:15 放送

【番組概要】

本日までご試聴いただくのは、6月13日(月)に放送した『TOKYO FM WORLD』のダイジェストです。この番組は、世界の若者たちとグローバルな最新情報をシェアすることを目的に、昨年10月にスタートした番組です。世界最大級のオーディオネットワーク「TuneIn」を通じて番組宛てに世界各地から届く音楽情報をオンエアしたり、アーティスト本人からのメールにより番組内でのオンエアやゲスト出演を実現するなど、日々移り変わる、世界の最新エンタテインメントをお届けしています。

この日は「TOKYO FM WORLD サミット」と題して、日本の学生1名と、アメリカと台湾の外国人留学生2名がスタジオに集まり、政治をテーマに若者目線で各国の政治について思うことを討論してもらいました。日本では7月に参議院選挙を控え、さらに18歳選挙権が施行される背景もあり、世界の若者たちが政治について何を思い、考えているのか、国境を超えて若者の政治観の本音を聞く模様を放送しました。



◀ ディスカッションの様子

■ TOKYO FM WORLD 月～水 20:00～21:15 放送 (2016年10月よりスタート)
コンセプトは“世界視点の感性を磨く”。「東京」で日々生まれる新しいカルチャーや、海外の最新エンタメ情報を発信するとともに「TuneIn」を通じて世界に配信するコンテンツ開発にも取り組んでいます。番組ナビゲーターは月・火曜日は、英語が堪能なケリー隆介と、中国語が堪能なアンジー・リー。水曜日はCMや映画ナレーションで活躍中のマックスウェル・パワーズが担当。21時台には「でんぱ組.inc」が、日本が世界に誇るカルチャー・人・モノを紹介する『でんぱ Ch.♥～TOKYO DEMPA INTERNATIONAL～』をお届けしています。

***これまでの番組テーマ**

- ・海外アニメソング事情
- ・世界の民泊と日本の民泊
- ・海外就職を考える
- ・イギリスが EU 離脱
- ・世界の医療事情
- ・渋谷区長をゲストに LGBT 特集 etc

*** TuneIn 関連のトピックス**

「TOKYO FM WORLD」は、TuneIn での配信版スタート（2015 年 7 月 31 日）から約 1 年で、世界 196 の国と地域から約 17 万人がアクセス。聴取者の規模は拡大中です。リスナーが東京や日本に興味ある外国人と想定できることから、今年 7 月より内閣官房オリンピック・パラリンピック東京大会推進室の直接要請を受け、外国人向けの熱中症予防に向けた啓発活動への協力要請を近日中に開始予定です。今後も 2020 年に向けて、国内も含めた更なる認知度向上施策を行います。

また、海外の放送局との連動企画にも熱心に取り組んでいます。毎週水曜日のコーナー企画「Lush on Tokyo FM」では、シンガポールのラジオ局「LUSH 99.5FM」と連携企画を実施中。TOKYO FM と LUSH99.5FM の各レコメンド楽曲を相互の放送を通じてオンエアするなど、新しい試みに挑戦しています。さらには、EARTH CONSCIOUS の理念を世界に広げるため、地球環境問題についてのメッセージ発信についてもコラボレーションしており、イベント展開などへ発展させていく予定です。

***当日のオンエア曲**

- On My Way / Xylaroo
- アメリカン・イディオット / グリーン・デイ
- The Choice Is Yours / ライムスター
- ヴァーティゴ / U2
- マニフェスト / RADWIMPS

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

○このところ若者が政治に参加していく、あるいは関心を高めるという気運がずっとある中で、世代ごとにいろんな考え方や意見があると思う。しかし日常的に音楽や娯楽など、いろんなものがコンパクトに集まるラジオの中で“政治”というテーマが自然に取り上げられることが最も大事だと思う。今回特に感じたことは、話すトーンが普段のおしゃべりを聴いているようだったこと。“政治”という固いテーマの割にトーンのやわらかさのギャップを感じたが、それ

こそが今回のディスカッションが成功している証拠だと思った。大人が聴けばただのくだらない話に感じた部分もあったかもしれないが、それでもいいと思う。語れるテーマであっても語れないテーマであっても、若い人が自分たちの言葉でとにかく話してみる、きっかけとなる場があることが、まずは大事。どの学生も楽しそうに話していたし、こんなことを言ったらどう思われるかな、という気負いも感じられなかったところも良かった。また我々のような“大人が共感できない”内容であったことも企画が成功している、と感じられる要因の一つ。ここで話されていることが一体何に発展するのか、ということについては一切考えなくていいと思った。選挙前だから、ということだけではなく若者をターゲットにしている TOKYO FM として、このようなディスカッション形式の番組に、今後もぜひ意欲的に取り組んでもらいたいと思う。

○まず「いい番組！」と思った。今回集まった若い人たちが政治に興味を湧いてこない理由はどこなのか、といった集約点や論点をシャープに出さずに、あえてフラットに話が拡散している。それが現代に生きるこの世代の“リアル”だと思う。そのリアルさを番組として表現できていたところが、とてもいいと感じた。あえて対立軸を番組側で作為的に作らずに、とにかく進行していたので、普通の学生のおしゃべりを聴いているような感じだった。もし集約点というものを制作側からあえて打ち込むのであれば“こういうことについて君たちはどう思う？”というレポートを番組の間にインサートしてみると面白いと思う。街頭インタビューの内容もよかったと思うけれど、例えば、今の 18 歳から 20 歳までは選挙人口全体のおよそ 2% と言われているけれど、一般的に選挙における 2%~3% というと惜敗率を動かせる人口。あなたたちの世代の票が実際に政治を動かすことができるよ、といったようなテーマであるとか、2~3 の材料を落としてみて、みんながどう反応するか、ということを試してみるやり方もあると思う。

○トーク中の BGM が大きい音量で流れていることが気になる。エンタテインメント性を狙っているのかどうかかわからないが、TFM の他の番組でもそのようなことが多いように感じる。話の中身に合わせた番組全体のトーン&マナーについて、FM 放送として、もっと研究していくべきではないか。

○若者が政治を語る企画ということで、どのような展開になるのかと楽しみに聴いた。今は SEALDs (シールズ) の方たちのように、若くてもきっちり政治を語れる方もいらっしゃるし、どういう学生が出てくるのだろう、と思っていたが、予想以上に肩に力が入ってなくて、とても正直なコメントだった。ラジオに出演しているんだから、すごくカッコいいことを言わなくてはならない、という若者たちでもなかったのも、リスナーの 10 代も“もっと政治に興味を持たな

くては”といったような変なプレッシャーも感じずに済んだのでは。ノンポリシーであることにコンプレックスを感じていたり“いきなり選挙権が来て、どうしよう”と思っていた人も多かったのではないかと思うが、同年代のリスナーも聴いていて安心できる番組だったのではないか。基本的に全体がフラットな感じでいいと感じたのだが、この議論のまとめりであるとか、今後のヒントを求めるといふことで言えば、正直言って物足りなく思った。例えば、ちょっとしたデータであるとか、20年後の日本がどうあってほしいか、というような質問をこちらから投げかけるなどの“気づき”のようなポイントがあると良かった。他の委員の先生同様に、このような取り組みは今回1回限り、ということではなく、これからも続けていってほしいし“政治”という、一見固いテーマについても定期的に取り上げてもらいたいと思った。

○普段から、今回のような少人数でのディスカッション形式で番組を進めているのか。

■いつもは、その日のテーマに沿ったプロをお一人、ゲストに迎えてお話しを伺う形式を取っている。今回は時勢もあり、特別に“サミット”と銘打って若い人たちの話をフランクに聴こう、ということになった。まず街頭で若い世代の声を集めてから、ディスカッションに集まってもらった3人に、その素材を聴いてもらい、その後「みんなはどう思う？」という質問形式をとった。大人が聴くと、ちょっと物足りないかな、と思われるふしもあるかもしれないが、番組側であえて着地点を作るようなことはせず、表層的な番組にならないためには、どのようにしたらいいか、ということ意識して制作した。

○おそらく若いときには、同じ年頃の若い人が話しているテンションであるとか、ちょっとした優越感を持つことであるとか、反感を持ったりすることが訴求力になるから“政治のことなんてわかんないけど”というような“共感”は、物事を理解する以前の“動機”として大事なことだと思う。こういう話をしていくことで政治に意識的な若者だけでなく、そうでない若者も、何らかの引っ掛かりを覚え、自然に意見が出てくると思う。それも含めて、いい試みだと思う。

○少し気になった点は、学生全員の仲が良すぎる。それは初めて会う若い人たちが集まったときに、気を使いすぎ合うことでよく起きること。今回は意見がぶつかる前に議論が終わってしまったように感じたので、例えば背伸びしている人に対して、それ違うんじゃない、と言えるような場面があればもっと良かった、と思う。

■BGM を入れないと番組ではない、という制作者の思い込みも含め、演出面をブラッシュアップしていきたいと思う。本当に聴かせたいトークについてはBGMなしでいくなどの工夫は、制作者のセンスとしても随時必要だと考えている。番組全体のトーン&マナーを含めた音の強弱については課題として編成制作全体で共有し、今後実験的な試みをしていきたいと考えている。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「SPO☆LOVE」
7月30日(土)5:00～6:50放送
- ② 書面:TOKYO FMサービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、9月6日(火)に開催することを決めた。